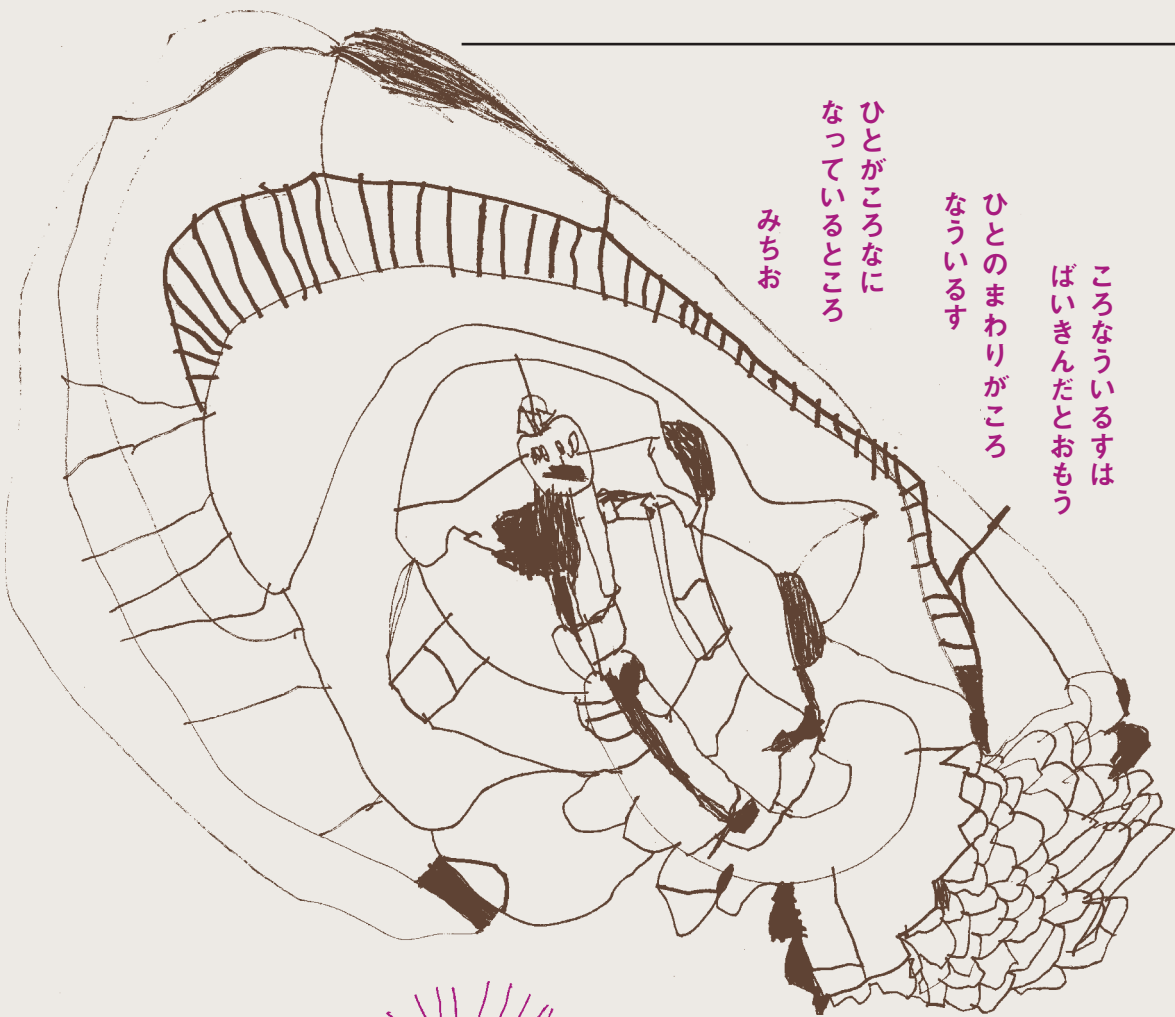


まちの ほいく つうしん

第一号

二〇二〇年

七月号



ころなういるすは
ばいきんだとおもう

ひとのまわりがころ
なういるす

ひとがころな
なっているところ

みちお

ころなういるすの

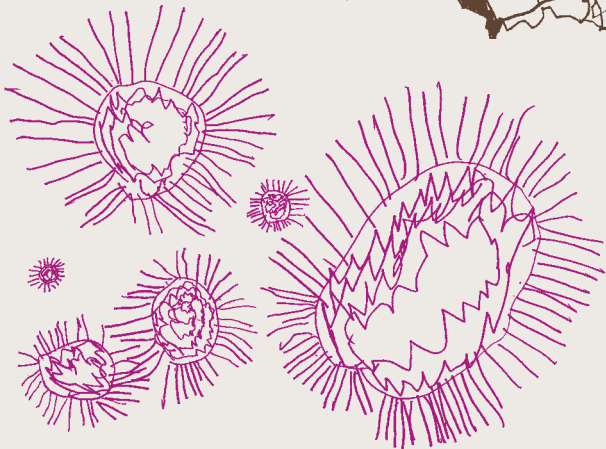
きんをかいた

ころなとにているから

きんをかいたよ

ころなういるすは

ばいきんだとおもう



にゅーすでみたから
かたちをしっている

ひなつ

ほいくのこと

コロナ禍の〴〵を考える。
代々木公園の保育から

まちのこども園 代々木公園は、区の方針により、四月～五月は二ヶ月近く休園となったのですが、休園期間中はオンラインでの動画配信や保育に取り組みました。想像もしていなかった事態でしたが、こういうときだからこそ、私たちの理念、園の保育で大切にしていることに沿った形で、日常行っていた朝の会、日常の保育、アトリエの保育を届けることを意識しました。

いつもやっていたことを続けることが、私たちのらしさを大切にすることでもあり、子どもたちのリズムづくりにもなったように思います。

オンラインであっても、活動の中心に置くのは対話。みんなで話したいことをベースに、少人数の対話を行いました。

四、五歳には、テーマ性を持った話題を。

『コロナについて、どう思っている？』

子どもたちに、この問いを投げかけたところ、

「まちに人は消えているけど、スパーは混んでいる」

「マスクしている人が多くなった」
「好きなお店が閉まっていて悲しい」

子どもたちにもそれぞれの想いがあり、たくさんのかたちを感じています。同時に、大人の対話の中で、給食でお世話になっている地



ころなういるすの
なかまをかいた

ころなはいっぱいいる

まわりのてんはあかちゃん

あかちゃんは

ちいさいけど

つよいんだよ

だって、

ちいさいからどこでも

はいっていけちゃうから

おとうさん、

おかあさん

おにいさん、

おねえさん

おじいちゃん、

おばあちゃんがいるよ

ななちか

保護者と

つくる

共に育ち合い、繋がりが合う。六本木園のかたち

保護者の方は、コミュニティの中心にいる参加者です。子どもを真ん中に、園と家庭が連携して子どもの育ちを支えることを大切にしています。

第一号では、六本木園の様子をご紹介します。地域と繋がりが合うという視点において、一番身近な地域は保護者です。安心して子育てができること、保護者同士が繋がりが合っていることは、子どもたちの安心感にも繋がると考えています。

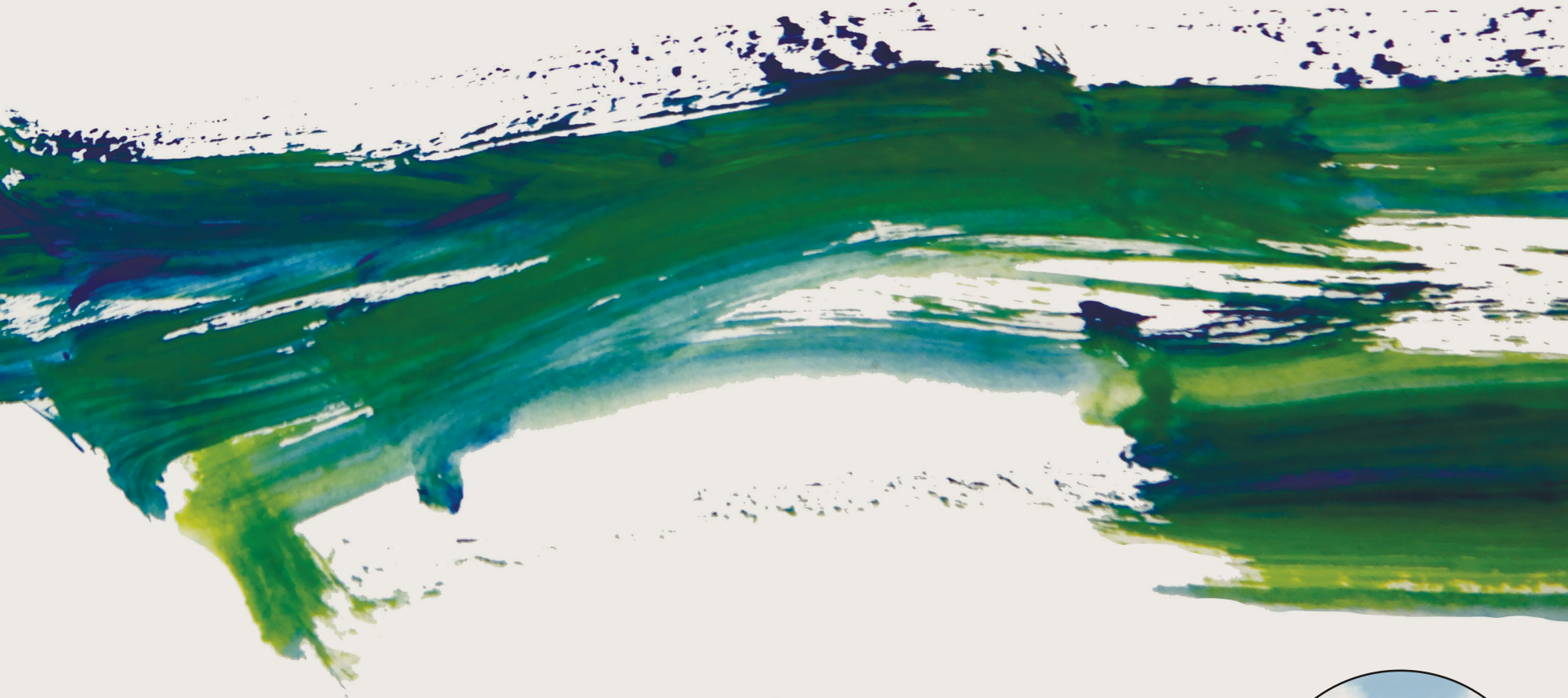
音楽会、夕涼み会、一泊二日で森へ行く活動（森へ行こう）など、子どもを真ん中に保護者も一緒に

楽しめる行事を、これまで続けてきました。特に「森へ行こう」は家族同士が繋がる機会にもなり、卒園児が「卒園後も森へ行こう」という企画を立てて卒園後も集ったりと、園を代表する活動となっています。

もう一つ、活動を支える場として、軒下のカフェ「まちの本とサンドイッチ」があります。お店をハブに、保護者、地域の子育て家庭の情報共有の場となったり、園もいっしょに相談を伺ったりと、保育園の横にお店がある意味を感じています。

保護者の方が蒔いた地域と繋がりが合う種が、子どもたちの活動へと繋がっていくこと。卒園しても、親同士が繋がりがあい子ども達の育ちを見守っていること。保育園が卒園しても、安心して顔を出せる場であること。

コロナ禍で形態は少し変わるかもしれませんが、六本木園らしい、保護者をつくる、繋がる形を考えていきたいと思っています。



園紹介

第1回

まちのこども園 代々木上原

二〇一七年四月一日開園
保育所型認定こども園
定員一〇八名（内、短・中時間枠六名）



園がこどもたちにとって、安心して遊び込める、自分が出せる場であること。こどもたちの声・話を聞くこと。ペースを尊重して待つこと。どこにいても、表現の場所があること。

こども同士も、自分を認め、互いに興味を持ち、それぞれの良さに気づける文化を大切にしています。

保護者も大事な子育てのパートナーです。園では、一番近い地域の方として、それぞれのペースで、ご自身の興味のあることや得意なことを生かしながら、日々の保育や園運営に関わってくださっています。園庭の遊具を整備した「大工会」「保護者の声から始まった「まちの掲示板」。こどもたちの興味・関心に寄り添い、地域の方を繋い



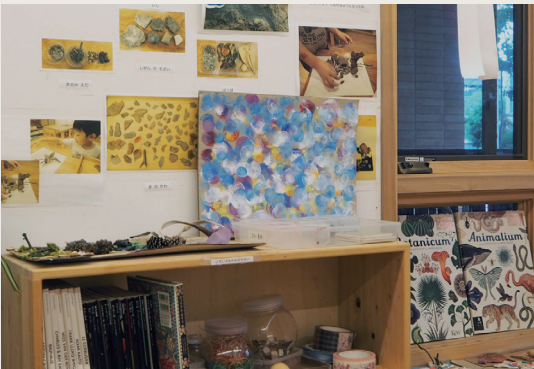
てくださったりもしています。上原園の保護者の皆様、いつも本当にありがとうございます！

代々木上原の園がある周辺は閑静な住宅街ではありますが、小学校や商店街、大学も近く様々な関わりが日々生まれています。大学生と繋がって一緒にビオトープを作ったり、はちみつ搾りの体験をしたり、学園祭におじゃましたり。

給食の食材についても、パンや肉、魚など、できる限り地域のお店から購入するようにしています。子どもたちがまちに出かけてお店を見せていただくなど、日常の中で地域と繋がることの有り難さを日々感じています。

まちのこども園

よよぎうえはら
YOYOGI-UEHARA



キッチンと

つくる

小竹向原園 編

私たちが大切にしている、「食」。
第一号では、小竹向原園のキッチンをご紹介します。

小竹向原園のキッチンは、園の入り口から入ると、渡り廊下を渡った先の二階にあります。

ランチルームと並んでおり、子どもが関われる高さまで窓を設けた、大きく中が見えるつくりが特徴です。

大切にしているのは、地域との繋がりが。できる限り、地域のお店から食材を購入するようにしています。仕入先の魚屋さんに協力してもらって、鮭の解体ショーをしたり。

また、食・食材を通しての子どもたちとの関わりも日常の風景としてあります。

保育者は、子どもたちの食への

興味・関心をもとに、すぐにキッチンチームに声をかけてくれます。野菜のヘタや切れ端を、保育の中で素材として日常的に使ったり、五歳児クラスの子どもたちと、食にまつわる絵本をピックアップして、「絵本メニュー」を毎月給食で出したり。

献立表や園だよりにも、子どもたちに挿絵を書いてもらっています。



まちの保育園・こども園の 人気レシピ



第1回 小竹向原園

「野菜たっぷりドライカレー」

約大人 2 人分

〈材料〉

ごはん：茶碗 2 配分

豚ひき肉：200g

ニンニク：1/2 片

しょうが：少々

玉ねぎ：1/2 コ

なす：1 本

ピーマン：1 つ

人参：1/2 本

グリーンピース：適量

オリーブ油：適量

トマト缶：50 g

ワイン（赤）：少々

★砂糖：小さじ 1～2

★塩：少々

★カレー粉：1-2 g

★ケチャップ：小さじ 1

★ソース：小さじ 2

★コンソメ：小さじ 1

〈作り方〉

野菜（玉ねぎ、なす、ピーマン、人参）はみじん切りに。

①すりおろしたニンニク、しょうがをオリーブ油で熱し、豚ひき肉を入れて炒める。

②肉に火が通ったら、みじん切りにした野菜とグリーンピース、ワイン、トマトを入れ煮込む。

③全体に火が通ったら調味料（★）を入れて再度煮込む

④お皿にご飯を盛り、カレーをかけて完成！



地域と

つくる

子どもたちに季節を感じる実体験を。
吉祥寺園の事例から

吉祥寺園で毎年継続している活動の一つに、土づくり・野菜づくりがあります。この活動には、武蔵野市の市民団体「クリーンむさしの」さんに関わっていただいています。

初めは保護者の方からのご紹介でしたが、現在は五歳児が生ゴミから土をつくり、その土で下の学年の子どもたちも野菜をつくるというのが、園の文化になっています。

保育の中で「季節の移ろいを感じながら、実体験として自然に触れられる機会をもつ」ということを大事にしていますが、この活動は子どもたちの大切な「実体験」の機会になっていると感じています。

今年は新型コロナウイルス感染症のために、園にお越しいただく活動はお休みしていますが、昨年までは月に一、二回くらいの頻度で足を運んでくださっており、子どもたちも来てくれることを楽しみにしていました。あるときは、子どもたちが開催したコンサートのお客さんになっていたいたり、いっしょに食事を囲んだり、手作りの年賀状を出したり。

地域の方との活動では、コミュ



ニティコーディネーターを中心に、関わってくださる方とのコミュニケーションを丁寧に重ね、一緒に子どもの成長を見守っていただくという視点と、子どもたちの興味・関心に沿った形で、子どもたちの願いを実現できることを大切にしています。

コロナ禍ではありますが、子どもたちが毎年楽しみにしているこの活動は、新しい方法を探しながら、続けていきたいと考えています。

まちの保育園 こども園

代表 まつもとから

「まちのほいくつうしん」が始まりました。これから、皆さんに、まちの保育園・こども園や、園に関連する動き・取り組みをシェアしたり、一緒に何かを考えたりアクションしたりするような、コミュニケーションのひとつとして、定期的に発行して行きたいと考えています。

この通信、実は、五年ほど前に刊行していた時期があったのですが、このコロナ禍であったり、法人として一〇周年を迎えたりで、やっぱりコミュニケーションのつながりを大事にしたいと思うこともありまして、五園になってからは初めての取り組みとして復刊させていただきますことといたしました。

このリニューアル第一号の、私のコーナーでは、「まちの保育園・こども園で、大切にされていること」がいろいろと編集会議でなりました。このテーマは、これまで、いろいろな場面でお話してきました。対話させていただきながら、皆さんと見出し、育ててきました。今回は、私がコミュニケーションを代表して書かせていただきますが、あくまで私の視点から書くもので、まだまだ、たくさんの考えがあると思います。これをベースに、また皆さんとお話しして行ければと思います。

さて、この「まちの保育園・こ

ども園で、何が大事にされているのか」と問われたときに、最近「わけない」ことなのではないか、というお話をしています。違いを大切にしながら「わけない」ことです。これを「七つの、わけない」からお話してみたいと思います。

まず、教育・保育の面から言えば、「知識を、わけない」。日々の探究やプロジェクトで、子どもたちがあらゆる知を深め、広げ、統合しながら、自らのものにしていくことを大事にしています。子どもたちの「学びの物語」と分断されていないこともポイントで、子どもの好奇心やセンスオブワンダーから始まる探究から、人生で

七つの、わけない

広く・深く・長く活用できる知や経験を獲得することを目指しています。

そのための教育的アプローチとして三つの視点があります。一つ目は「あたま・こころ・からだを、わけない」ことです。言語伝達中心で、教える側から知識が一方に届くスタイルではなく、表現などあらゆるコミュニケーション（「一〇〇の言葉」）を用い、人・もの・こと・文化との双方向の関係性の中で学び・育ちます。手を動かし、心もからだも没入するような実体験や実験が大切にされます。日々の子どもたちの「創造」から、この世界の「意味」を生成することを、ねらいとしています。二つ目は、「教え手と、学び手

を、わけない」。保育者は、子どもたちにとって探究のパートナーです。もちろん、秩序やルール、文化を届けていくこともありますが、その場合でも常に、共に気づき、学んでいく存在として保育者がいます。三つ目は、「まち（地域や社会）と園を、わけない」。園のあり方として、まちと共にある。社会関係のウェブの中にある、開かれた園を目指しています。これは語ると長くなるので、改めてどこかで書かせていただくこととして、視点のみにさせていただきます。

そして、その時、大切にしたい「価値観」が三つあります。一

つ目が、「一人ひとりのちがいを大事にしながら、わけない」。それぞれのユニークネスを大事にしな

がら、共感のある「違いの共存」を目指す。いわゆるダイバーシティ&インクルージョンの考えとも言えます。二つ目が、「市民として、子どもも大人も、わけない」ことです。子どもも大人も、共に育つ。子どもも社会に参加する市民である。子どもの意見・考え・アイデアが私たちコミュニケーション・社会にとって、大人と同様、大事に受け止められていることです。シチズンシップの視点とも言えます。また、子ども同様、保護者も主人公です。保護者もコミュニケーションの中心的な参加者として捉えられています。三つ目が、「ひと

いきもの・しぜん・ちきゅうを、わけない」「こちらとあちら。世界。をわけない」。人の幸せ、平和と、地球のウェルビーイングに、私たちの日々の活動をつなげて行きたい。一つひとつは小さなことかもしれない。一つひとは小さなことかもしれない。でも、その積み重ねが大きな一歩につながるよう信じ、行動していきたい。そのような想いです。

「わかる（分断）」ではなく、「すべてが一緒」でもない。違いを尊重しながら、「わけない」。難しいですね。なので、私たちはコミュニケーションで向き合う選択をしているのです。「七つの、わけない」。「問い」続けながら、ああでもない、こうでもない、と手探りしながら、時にはすこし休んだりもしながら。そんな日々を繰り返しながら、子どもも大人も育っているような場を目指したいと思っています。

そして、この「わけない豊かさ」は、日々子どもたちが、私たちに届けてくれたりしますね。子どもたちを真ん中に、これから、皆さんとたくさん語り合って行ければと思っています！

また、園でお話ししましょう！

松本理寿輝



まちの
ほいく
つうしん

「まちのほいくつうしん」について

この「まちのほいくつうしん」は保護者の皆さん、地域の皆さん、私たちに関わってくださっている全ての皆さんと、一緒につくっていきたいと思っています。取り上げてほしいこと、お気づきの点、ご感想などがありましたら、お気軽にお寄せいただけますと幸いです。これからどうぞ、よろしくお願いいたします！

発行日：2020年7月29日 編集・発行：ナチュラルスマイルジャパン株式会社 まちの保育園・こども園 アートディレクションとデザイン：Donny Grafiks
ナチュラルスマイルジャパン株式会社 本社部門 〒176-0004 東京都練馬区小竹町二丁目40番4 E-MAIL：machihoiku@machihoiku.jp TEL：03-6447-4471
© NATURAL SMILE JAPAN, Inc. 2020 Printed in Japan